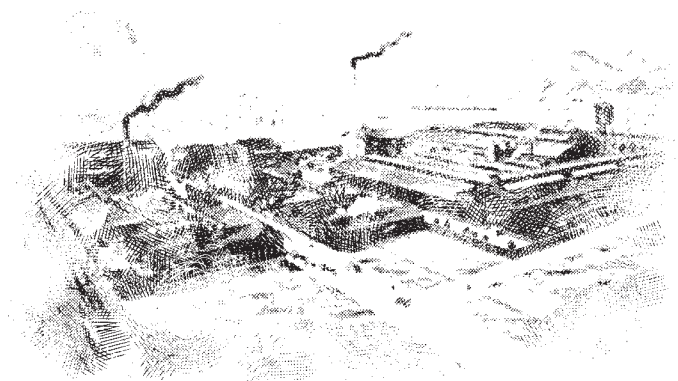


第4章

鈴木商店

日本初の硬化油工業、冒険野郎とゴム事業



時は少し遡る  
金子直吉は外国人居留地で  
ある疑問を抱いていた

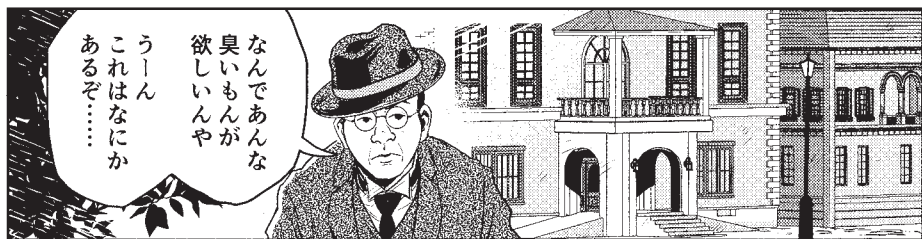


そうですね  
魚油を集めてください  
ただし他の商館には  
売らないでほしい  
のです

ほおー  
魚油ですか  
お任せください



イリス商会さん、  
何か欲しいもんは  
ありますか？



なんであんな  
臭いもんが  
欲しいんや  
うーん  
これはなにか  
あるぞ……



明治四三(一九一〇)年の  
日韓併合後は朝鮮水域の  
魚油を大量に集荷  
業界最大手となった

鈴木商店は北海道で  
悪臭がひどくほとんど  
捨てられていた魚油  
(イワシ・ニシン油)を集荷し  
神戸の芦漢島で精製油を製造  
外国人居留地から  
大量輸出するようになる



西洋では  
イワシやニシンの油に  
水素を添加して  
蠟燭や石鹼にしたり  
副産物としてグリセリン、  
オレイン酸など製造して  
大儲けをしている  
らしいです

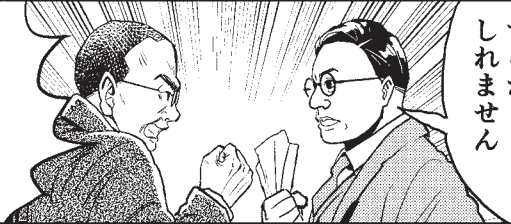


何っ!?  
あいつら……  
そんなことも  
知らんでわしらは  
外国人を儲け  
させるために  
くっさい魚油を  
輸出してたんか  
……



ううう……  
悔しいのう

金子さん  
この分野は  
硬化油工業  
という新たな  
産業に成長  
するかも  
しれません



よしっ  
おまえとわし  
そして  
鈴木 靱智で  
産業を興すぞ!

大正元(一九一二年)  
久保田は刈藻島の  
小さな実験室で  
研究に取りかかった



やっぱり  
臭いのう……

そして一年後  
久保田は蠟の生成に  
成功する

金子さん  
ようやく蠟が  
できました!

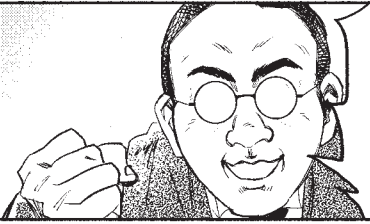
ようやくった!  
次は水素をどう  
するかだな……  
よし

神戸製鋼所の  
中央研究所の中に  
水素プラントを  
つくるんや



しかし自分は  
そちらの  
方面は……

心配せんでいい  
有能な技術者を  
後藤新平さんに  
手配して  
もらっとる!



こうして  
村橋素吉や  
磯部房信が  
加わる  
こととなる



しかし試験生産は  
順調には進まなかった



すみません  
また電解装置を爆発  
させてしまい  
ました……

謝らんでええ  
それよりも諦めるな  
まだ日本では誰も  
量産に成功しておらん



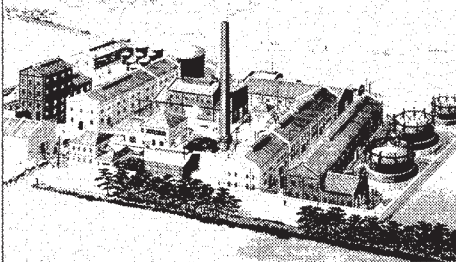
いいか  
ここでやらねばずっと  
外国人にいいようにされるぞ  
自分たちで蠟燭、石鹼、そして  
爆薬にもなるグリセリンを  
日本でもつくるんじや

そのための金なら  
いくらでも使つていい

は はいっ！  
ありがとうございます！



ようやく量産の目処がつき  
荊藻島の対岸に村橋の指導の  
もとで鈴木商店製油所  
兵庫工場の建設がはじまるのは  
大正四(一九一五)年の  
ことであつた



鈴木商店は硬化油の研究に  
着手してから量産までに  
大里製糖所の売却益に匹敵  
する規模の資金を投入した  
これが現在の日油の  
出発点である

この頃  
金子直吉のもとに奇人が  
多く集まりそこから  
事業が生まれる

金子さん  
今日は私の兄者を  
紹介させていただきます

省三と  
申します

ほう、口説きの  
依岡省輔の兄か  
こりやまた一癖  
ありそうじゃ



私は榎本武揚大臣の  
命を受けて小笠原諸島を  
探査しました  
そしてこの国にも  
属していない硫黄島を  
日本領土に編入するよう  
献策しております

ミッドウェー島も探査し  
南大東島では製糖事業を  
手がけております

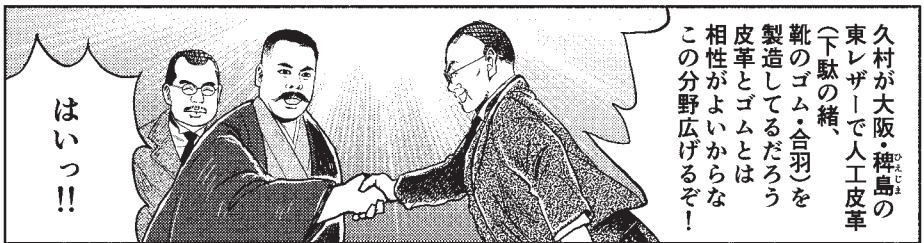
実は  
サラワク(現・マレーシア)を  
冒険しようと思ひまして……  
ゴムの栽培を考えています

なぬっ! ゴムか  
おもしろいっ!!  
危険を顧みない  
冒険野郎じゃな  
一緒にやろう  
ではないか!!



久村が大阪・鞆島の  
東レザードで人工皮革  
(下駄の緒、  
靴のゴム・合羽)を  
製造してるだろう  
皮革とゴムとは  
相性がよいからな  
この分野広げるぞ!

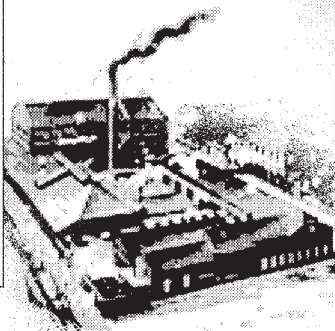
はいっ!!



そして鈴木商店は  
ゴム事業を発展させる

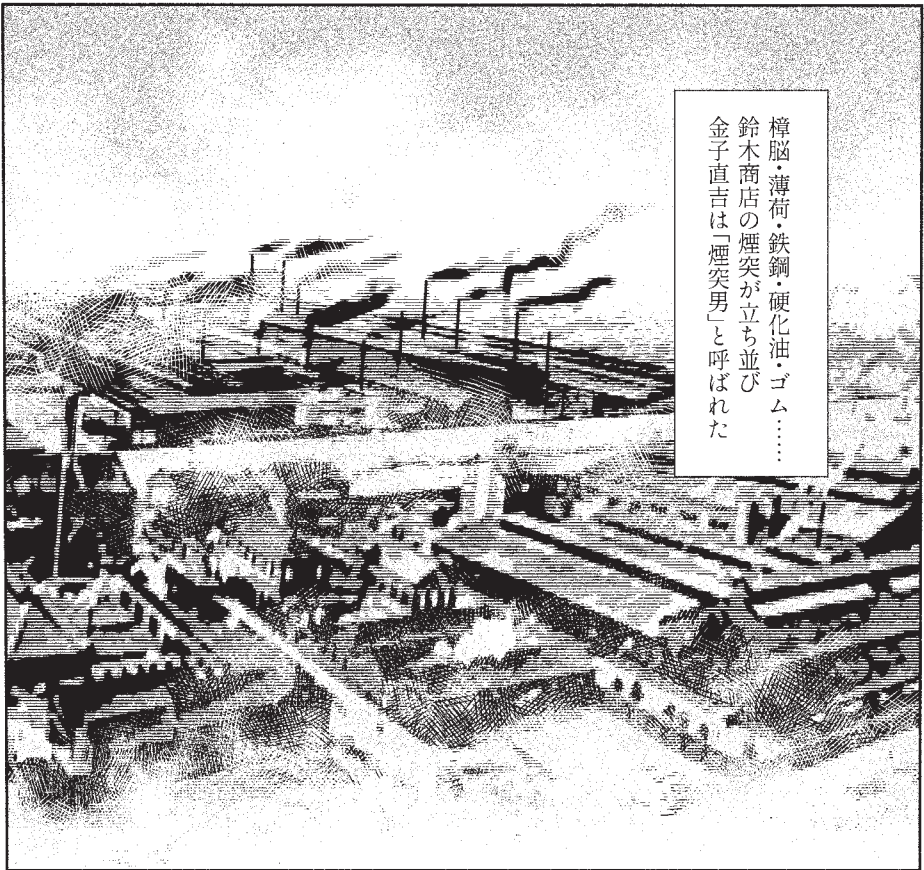
大正三二(一九一四)年  
神戸・敏馬にゴムの製造工場  
(日本輪業、現・ニチリン)を設立

「さくら・タイヤ」「アズマタイヤ」  
「ニチリンタイヤ」などのマークで  
自転車タイヤ・チューブを製造



さらに新たにファイバー  
(硬質繊維板)の製造を開始  
日沙商会から東洋ファイバー  
(現・北越東洋ファイバー)  
が発足する

樟脳・薄荷・鉄鋼・硬化油・ゴム……  
鈴木商店の煙突が立ち並び  
金子直吉は「煙突男」と呼ばれた



金子直吉がこたわった  
人絹研究は困難を極め  
つつ徐々に進んでいた

どうじゃ？  
研究は



ええと金子さんと  
一緒に来られた  
秘書の小野さんが  
二硫化ガス中毒で  
倒れましてですね……

いや……はい  
まだ歩留まりが悪く  
……申し訳ありません



なんの！  
いまの歩留まりは  
60%でコスト四円  
技術と機械と職工の三つが  
揃って働くようになれば  
歩留まりは90%にもなり  
コストは八〇銭  
ぐらいになる

そうなれば  
大儲けじゃ!!



この頃には神戸の鈴木商店  
そして金子直吉の名は  
日本中に知れ渡っていた

金子直吉の米沢来訪を  
知った地元財界人たちは  
招遷閣に招き  
事業化を懇請した

是非  
士族が始めた  
旧製糸場を使って  
人絹の製造を事業化  
してください工場は  
無償でお譲りします

ただより高いものはない  
買わせていただく  
鈴木の名を汚すわけにはいかず  
まずは久村の東工業の子会社  
というこゝで出発しよう





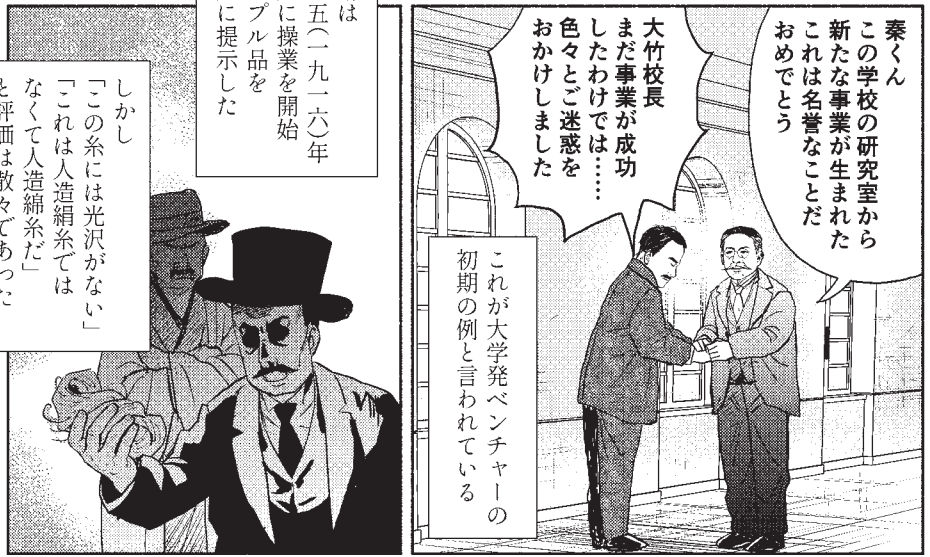
秦くん  
この学校の研究室から  
新たな事業が生まれた  
これは名譽なことだ  
おめでとう

大竹校長  
まだ事業が成功  
したわけでは……  
色々ご迷惑を  
おかけしました

これが大学発ベンチャーの  
初期の例と言われている

工場は  
大正五(一九一六)年  
五月に操業を開始  
サンプル品を  
客先に提示した

しかし  
「この糸には光沢がない」  
「これは人造絹糸では  
なくて人造絹糸だ」  
と評価は散々であった



久村も米沢入りをし  
人絹の製造を支援する

この事業は  
成功させなくては  
ならない……!

久村さん  
痛み入ります

光沢光沢……  
ナメクジの這ったあととの  
光沢を研究したら  
どうだ?



ナメクジ  
ですか?

いいからナメクジを  
ヴィスコースに  
入れるんじゃ!

金子直吉は素人ながら  
二人と悩みを共にし  
次々と途方もない  
アドバイスをした



しかし  
なかなか研究は  
進まなかった

うぬぬ……  
わかった

秦、ロンドンの高畑の  
ところに行け何も収穫が  
なくてもいいとにかく  
行くんだ!

はいっ

こうして秦は  
ロンドンに旅立つ  
ことになる  
日本の人絹の  
未来を背負って



第一次世界大戦を  
契機とした産業構造の変化は  
三社の発想と創造に大きな  
影響を与えていくのである